

出席 「自由」

今日の雨はやさしい
からだを
（二席）
倉本美穂子

おやすめなさいと
静かに
降っている

杏の花見

早よう起きんさい
早よう食べんさい
早ようしんさい
小さな母は巨大な
犀の調教師

富垣 豊子
（一席）

衣更え
着るに着られず
捨てるに惜しい
今年も又納める
貧乏性の私

空田 和子

明るい陽射し
今日も
いきいき・きらきらと
希望をもち
歩もうよ

ゆい 雅子

式典前日
長い平和行進がつづく
原爆に灼かれた人の
命の数だけ
生き切った証が要る

山田 正巳

残雪の山
麓はリンゴの花盛り
牧草は
新緑のカーペット
ノールウエイの春

優しく静かな歌。サラサラと雨音まで聞こえてきそう。雨の日は「休みたい」という作者の気持ち、わかります。ほっとしますよね。ひんやり、しとしと雨の一日。身体もだるかったので都合よく解釈した歌です。

全く同じことしていたなあ、方言も親しみやすくて懐かしい。五行目もいい！
今では私が子どもに「起きんさい」といわれ
てしまう（笑）

小さな母が六人家族を束ねていた頃のこと。
私が捨てては女房が拾ってきて・・・ともう
大変です（笑）

実家には私の子ども頃の制服までとってあるよ。女性ならみんな同じね（うん、うん）
毎年こんな繰り返しで 何十年になります。

マーチを聴いているようなスカッとした気分。
鬱陶しい梅雨の時期には、こんな歌を見ると
元気がでるよ。

これからの人生、こんな風に生きたいな。

二十歳で被爆した叔母のこと、生きていれば
思い出もたくさんあっただろうに・・・。
生き残った人の使命が伝わる、後半三行に惹
かれた。

長い平和行進に出会い、何もしていない自分
をふがいなく感じて。

景色や色までが鮮やかに浮かび、ノールウェイ
を旅されたのね」と。私も行きたくなかったよ。
林檎の花が満開でフィヨルドの断崖も絶景。
もう一度行きたい。消費税が二十%もかかる
のがネックだが。

花の好きな母が
この花だけは苦手 と言う
触れたくない思い出が
きつと
あるのだろう

鈴野 鳴道

花好きの人が「嫌い」というのはよほどのこと。何の花かな？ 私は彼岸花が嫌いですが。素直にこの気持ち入ってきました。夾竹桃。花の色が被爆者の火傷に重なって見えるから嫌いなのだと。

野菜と一緒に
一人旅
梅雨になれば
ゲロゲロ泣くや
雨かえる

原 ヤス子

気持ちにゆとりがあり、イメージ豊かな人。書き出しが面白く、いろいろな想像を掻き立てられる。

サニーレタスに入っていた蛙を庭に放つたらかれこれ五年も梅雨時にだけ鳴くのです。

生き残った人の
背負い続けた
「生」への
懺悔も
六十年

野 菊
(次点)

学友をたくさん亡くした私には、三、四行目が胸に突き刺さるようで。生き残ったことに負い目を感じることはないと思うが、当事者でなければ理解しえない深いものを背負っているのだろう。

これが五行歌の表現方法だと感じた。空襲にあい、防空壕から出る時に踏んでしまった赤ちゃんをお地藏さんにして拜んでいる人を放送で見て。

老いてなお
意欲湧く
手習いは
五行の歌に
誘われて

荒田 豊

共感を覚えた一方で、俺も歳をとったなあ。羨ましい、幾つになっても向上心が湧くというのは素晴らしいこと。制約のない表現方法に心惹かれて参加です。

白髪染めをしてもらい
頭は六十代と
喜ぶ母
枯木のように身体は老いても
おしゃれ心は若いしらず

和泉 圭

母に白髪染めをしてもらっている祖母を思い出した。おしゃれ心はずっともっていたいもの。素敵なお母さんですね。八十六歳の母は、考えはしっかりしていて今もお化粧や服にとても気を使っています。

艶めいた
噂さえ
素通りの
縁側の
涼しさ

かやみちこ

いまどき縁側は珍しいな。艶めいたことに縁遠いのでどんな噂か・・・そんなことはどうでもいらい涼しかったのだろう。梅雨さ中にふと涼しい時があり、それを強調したかった。縁側はないのよ(笑)

紫陽花

お金をかけて
スターを揃えた
だから
駄目なんだ
心がかけてる

ジャイアンのことに違いないね。

船頭多くして舟 山に登るといっしょね。

当たり前！ 私は星野さん大好きで中日ファン。
「お金をかける」と「心が欠ける」をかけて
みました。

清月

久々の大雨
庭の木々は
大奮闘
蝉のお客様の
来訪問近だから

蝉のにぎやかな季節がもうすぐきますね。
雨が降ると庭の木々が綺麗に繁る、この
比喩が上手いと。

空梅雨で木々も疲れているようだったが、
雨を境に生命力の凄さをみせてくれた。

岡部亜矢子

まだ
訪れてもない夏が
もう
終わってしまいそうな
線香花火

まだ来ていないのに終わったような、今年の
梅雨や夏を感じる。線香花火には切なさがある
よね。思いのつなぎ方が洒落っていて、構成
がとっても上手い。

梅雨の晴れ間に花火をした時の、友人のセリ
フをそのままいただきました。

内山 慶子

いつ降るの
毎日畑に水やりに出かけ
いつ止むの
雨に打たれて
芋の苗植える

今年の空梅雨と大雨の様子を上手く表してある
なあ。畑を作る人の思いが五行の中にし
っかりと入っていて感動。
六月は夏野菜に水やりながら、芋の苗を植える
のを延期した。結局雨の中、植える羽目にな
ってしまったのです。

懸川千恵子

いつも
感謝して
生きてきた
友人の母は
元気な白寿

うちの母も感謝して生きているので白寿まで
大丈夫と思った。感謝して生きるというのは
出来そうでなかなかできないこと。
友人の母が「させてもらう」と言っているの
をみて、私もこうありたいと思った。

いくたあつむ

車椅子で
デイケアにあらわれた
おばあさん
どんな話しても
横取りしてしゃべりまくる

元気で社交的な雰囲気のおばあさん。でも、
あんまり付き合いたくはないかなあ（笑）
「しゃべりまくる」の表現は五行歌のいい所。
家内を連れて行っているデイケアの名物おば
あちゃんです。

もみじの枝の上
全身でさえずる
小さな鳥のように
叫びたい私も
広島我真ん中で

森廣 房子

広島我真ん中って・・・？やっぱり平和公園かな。作者の思いが強く伝わってくるが、ストレスをかかえているのかな。ひよっとして更年期？（笑）小鳥のさえずりを表現したかっただけで、特に叫びたいことなんてないんです・・・。

皮下脂肪
洗い流せる
ソープ
だれか早く
作ってー

住吉 邦子
（次点）

飲み薬などではなく、石鹸という発想のすばらしさ、面白い視点ですね。ぜひ作って欲しいわあ〜（一同大賛成！）お風呂に入っている時にふと思った、私の心の叫びです。

紫陽花の
ような
心
今日 一日
大切に咲く

こころ

いつも思っていることが、そのまま書いてあり感銘した。しっとり落ち着いた歌のようだが、紫陽花は色が変わるので心変わりしてしまふのだろうか。紫陽花を歌いたかったの。毎日の生き方を大切にしたいと思って。

良かれと思
したことが
なんと逆効果
人生
そう 甘くないゾ

柴 まさこ
（三席）

職場で同様のことがあり、意思疎通の難しさを思い知った。自分の一言で会社を辞めてしまった社員を思い出した。気を利かせてしたつもりだったが、嫌味を言われ傷ついたことがあるわ。職場で良かれと思ってしたことが裏目に出てしまいました。

歌のみ「自由」

あの小説が
映画になる
本を借りた
私のこと
思い出してくれたかな

七瀬

ありがたきかな
この人生をいただきまして
ある息子の
父への感謝のことは
わが息子は？

山根 房子

気持ちの
すれちがいが
永遠のように
思える
梅雨の空

森 鈴

あの日のときめきは
幻かと
蛍の乱舞
夜の静寂に
月日を思う

よ志

逢う人 みんな
いい雨でしたね
慈雨とも
黄金の雨とも
やさしい日本のことば

若井もとむ
(三席)

久しぶりのスカートで
晒された脚は
せつなげに
白い女を
覗かせて

ゆうゆう

外国の人から見た
日本
手紙にて知る
日本のよさ
見なおそう

野田 真弓

映画より小説がいいと思うけど、やっぱり映画も見なくなる。かわいいね、あの小説って何だろつ？ 昔、好きだった人から借りた小説？ 淡い初恋を想像させられる素直さがないな。

我が家はどうなんだろう、いつか聞いてみたいこのようであってほしいけど。

娘もこんな言葉を投げかけてくれないかな。「思っけても言わんだけよ」って言っているかもしれないな。

出口がなくて気が重い、そんな状況がよくわかる。何かのきっかけで良くなる事がきつとあるのではないかな。

すれ違った心を、梅雨空に結び付けて上手く表してあると。

何年前？何十年前？ 大切にしましょう。

ロマンティックな蛍の乱舞、想像させられる青春。蛍の儂さと夜の闇との比較が生きてて上手いなあ。

九州の山奥で蛍の乱舞、無の境地でした。

日本の言葉の良さ、ゆかしさを改めて気づかされました。言葉ってこんなふうに使っんですね。作者の優しさが詠ませた歌、特に三、四行目、日本語っていいですねえ。

空梅雨の頃作った歌です。(その後、集中豪雨だったので訂正？の歌も出されましたがこちらを打ち込んだ事務局もホッ)

夏らしくエロティックで良い感じ。私もこつなりたいわ。「せつなげ」「晒された」もいい表現。この艶かしさはいつたい何歳くらいの女性なのかしら？

うふふ〜私の足よ。珍しくひらひらのスカートはいて「あ〜私も女だったわ〜」

ほんとうにその通り。日本のよさをめつと見直しましょうよ。

一度 外から見てみると他国にない日本だけの良さが見えるのだからと思っ。

五行目に
いつも四苦八苦
気楽にと
私を見つめる
あじさいの青蛙

小泉 秀子

程々の風
程々の雨
愛もほどほど
全ての程々に
乾杯

藤本フミエ
(一席)

あれから六十年
機銃射撃
足もとでブスブス
今だに忘れぬ
あの時の友は何処に

田中カズエ

歩行さえ儘ならぬ友を
支え歩くレントゲン室への廊下
結果良かれと願
いとしくて涙滲みて
そつと春を撫でる

安田 露子

自分の中に
もう一つの
命がある
とても不思議で
とてもいとおしい

柴田ともえ

かえるの歌を
歌い続ける
園児の息子
ママへの
誕生日プレゼントだって

小原さなえ

オギヤーと泣いた
死への行進だ
死の意識もなく
ノホホンと
生きていいのか

道原紀代子

四苦八苦はいつもだが、こんな素敵な後半部分
分は思いつかないなあ。構えてしまつと頭は
真っ白、ふつと浮かんだ言葉で歌をつくれた
らしいのにな。紫陽花を見ながらつくつてい
るのね。面白くて上手いわ。

中庸の序を思い出す。世の中すべて程々で納得
してれば平和で幸せにすごせるのかも。これか
らは欲張らず高望みせず。
程々、ほどほど。
空梅雨と集中豪雨で悲劇のおたまじゃく
し。どこに行つたやら。程々ならよかつたの
に・・・

戦争の悲惨さは決して忘れたり、昔話に
してはいけないと。戦後六十年、表面的に
は穏やかでも心の奥の辛い記憶は消えは、し
ない、思ひの強さを感じます。
戦後六十年、足元に玉がブスブスブス・・・
あの怖かつた記憶を思い出しています。

情景がよくわかる。
友を支えて歩く廊下は長いよね。切なさ、愛
おしさが伝わり、大きな愛で包む友への優し
さが嬉しかった。
ただ六十二音はちょっと長いよ。

ママになる気持ち素直に優しく伝わつてく
る。男には絶対わからない、女に与えられた特
技(?)女はか弱いが母は強し。
経験してはじめてわかるもの、だから育てられ
るのよね。

小さな命が自分の中にあるのがとても不思議
で愛おしくてたまらなかつたの。

母とこの微笑ましい情景に思わず昔を
思い出してしまつたわ。かわいいねー!!
きつと習いたての歌、ほのほのしてきます。
大好きなママへ、こんな純な気持ちを忘れな
いで育つてほしい。

生き方、命の尊さ、生まれた時から死に向か
つていけるのだが誰がそんなことを思いながら
生活しているかしら。歳を重ねた証ですね。
この先の生き方考えなくちゃ。

ここは先程
練習したはずなのに
覚えられないな・・・
五年前と変わらなかつてもりが
いやでも考^{かんが}える年月の流れを

丸矢 信子

孤独の妙味？
そんなもの
ありません
さみしい時
ただ泣くだけです

中塚 育子
(次点)

逝きて知る
あの事も この事も
聞いておけば
よかつたと
母しのばれる

さくら
(二席)

五行歌は
私にとつて
消すことの
できない
夢の落書き

榮 子

一人息子
戦地に送る宇品港
南無阿弥陀仏
ひたすら唱えし
母は凜として

やち子

ウァー今日はいいい天気
ね、ね、みてみて
アレアレよ
うわの空
さてお酒、ビール、焼酎、うん

福原 祥子

何かレッスンされているのかな？
一年前でもおお変わりなのに、五年前ならなおのこと。あなただけではありませんよ、習うはしから忘れてしまつて。ちよつと長いかも・・・でも同感です。
今 少し上のランクの資格に挑戦中です。

人はみな孤独、泣いて泣いて その後は強
くスッキリ前向きに・・・そつありたい。
孤独の妙味なんて泣いてる時に感じられるもの
のたろうか？ そつできたら心も楽になるだ
ろつな。

親思つ心にまさる親心、親には未来永劫生き
ていてほしい。「いつまでもあると思つな親と
金」でも、生前には切り出せないこともあり
ますよね。母と共に過ぎ去つていつた昭和、
暮る思いに共感です。

そつなんだ、夢の落書きだ と軽い気持ちで続
けよう。
三つ五行が心に残つた。心のつばやきは、
まさに夢の落書きそのものですね。
いつぱい落書きしましようー！

亡き父が宇品港から出兵、宇品には思いが
募ります。戦争中は個々の思いは心を鬼にし
て無になること。このお母さんの気持ち考
えると何とも辛い。出来ることは
ただ祈ることだけだったのですね。

久しぶりの好天に喜ぶ作者と、全く別の視点で
酒類を楽しむ相手との対比が面白い。
ピヤガーデンかな？ 星の輝きを見てほしか
つたのでしようが、お相手は「お酒さえあれ
ばこの夜はパラダイス」ね。